

太 陽

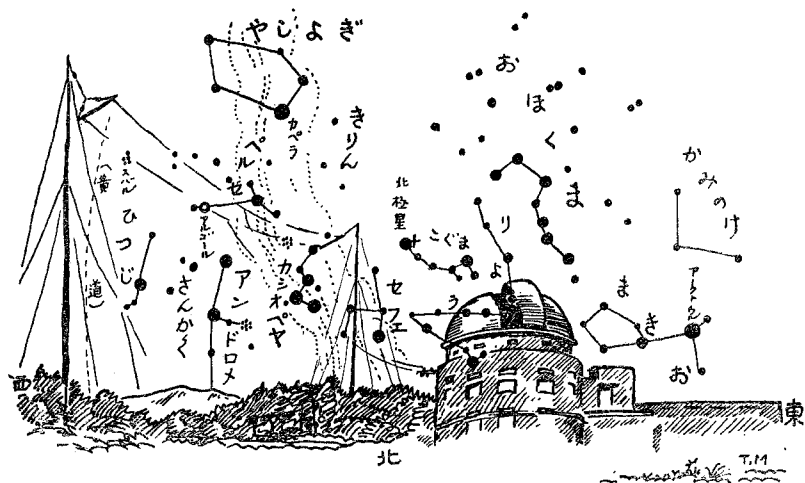
日	赤 經	赤 緯	直視經	星座
2	22時48分17秒	南 7度37分	32分20秒	みづがめ
12	23時24分22秒	南 3度44分	32分15秒	う を
22	0時 1分57秒	北 0度12分	32分 9秒	う を
(1)	0時38分30秒	北 4度 8分	32分 7秒	う を

月始め双魚宮に在るが、二十一日から白羊宮に侵入する。此の日は晝夜平分にして、日出六時一分、日没六時九分。且つ、その出沒方位は眞東及眞西である。地球は午後十一時に春分點を通過する、即ち、春分であり、春季皇靈祭を行はせられる日である。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
満 月	4日午後 7時36分	33分30秒	し し
下 弦	11日午後 2時15分	30分57秒	さ そり
新 月	19日午後 4時51分	29分27秒	う を
上 弦	27日午後 2時 4分	31分22秒	う し
近地點通過	4日午後 7時42分	33分30秒	し し
遠地點通過	18日午前 7時48分	29分24秒	みづがめ
降交點通過	6日午後 9時51分	33分 7秒	を とめ
昇交點通過	21日午前 2時22分	29分35秒	う を

今月中の月の遊星歴訪は、先づ一日午後七時に火星の北半度の距離を通過するのから始められる。四日午前四時海王星の北二度半ばかりの所を通り、十四日午前一時に土星の南を通るが距離が大でつまらぬ。十六日午後二時には金星を追越すが日中なので駄目。二十日午前一時に水星を掩蔽するが、日本からは見えない。二十一日午前三時天王星に甚だ接近するが、これも見えない。二十七日午後十一時に木星と、二十九日午前七時に火星と、三十一日午後二時に海王星と並ぶが共に距離が大で、興味もない。



恒 星 界

銀河は稍々西寄りに、淡い光を南北に流して、

此に沿ふたる、「セフェ」や「カシオペア」は、既に北の山の端に近い。

「アンドロメ」は半ば姿を没して、彼の大星霧も暫らくは見るによしなく、

「くぢら」も、正に没せんとして、「ひつじ」、「エリダ」之に續く。

北斗七星は、東北の空に高く懸りて、北極星を指ざし、

「ペルセ」、「きりん」は、時間と共に地下へと急ぐ。

「今や、天頂には「やまねこ」、「ふたご」が頑張つて。

冬も終りに近づいた事が、はつきりと知られる。

「おほいぬ」、「こいぬ」、「オリオン」等の、巨星が南に集り、

此れに加ふるに、遊星界の人気者も、二人まで揃つて、

一つは「ふたご」座に木星、他は「かに」座に火星が仲間入りをし、

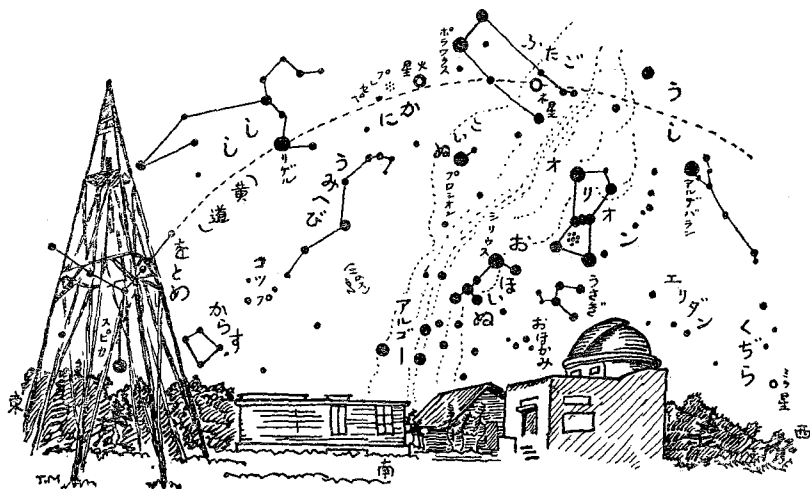
南の空は、此上もなく賑やかな景色である。

南天に低く「アルゴ」の姿を認め、長い身體の「ヒドラ」や、

可愛い「うさぎ」、「コツ」等の星座がならぶ。

「しし」、「かみのけ」や「りょうけん」等は東の空に高く登りて。

春の「おとめ」や「まきを」も、既に現はれる様になつて來た。



遊星界

- 水星** 月始めはまだ、暁の星であるが、十五日に太陽と外合。それ以後は宵の天に現はれる。従つて今月は水星観望には甚だ都合の悪い時期である。「みづがめ」より「うを」東端まで順行。視直径は殆んど5秒であり、光度は負1等である。二十六日夕刻天王星の北一度以内に並ぶ。
- 金星** 宵の明星として東北いて東端、「やぎ」「みづがめ」西端に迄順行し、視直径は19秒から15秒に減少する。光度は負4等足らず。望遠鏡で見ると、「八日月」位ひの形に見える。午前四時過ぎに東天に登る。
- 火星** 「かに」の西部にありて、逆行し、九日留となり以後順行に移る。勿論、宵の東天である。視直径は12秒より9秒に減少し、光度は0等附近。月始め、火星から若し發火信號でもしたとすると、その光は6分半にて地球に達し、月末には8分半を要す。
- 木星** 宵に南中する。「ふたご」座中央に、負2等で輝き。赤道直径は月始め42秒、月末38秒。極直径は此れより約3秒短かい。
- 土星** 暁の星。「いて」座中央を順行中、午前三時頃東天に登る。光度0.8等、視直径14秒。短徑14秒、環の長徑36秒餘り。徐々に太陽より離れるので今後は次第に観望に適する様になる。今月も月末程よろしい。
- 天王星** 宵の西天にあるが太陽に近く殆んど見られぬ。來月始め合となる。
- 海王星** 「しし」座口星の西北一度半の所を逆行中、視直径3秒、光度7.7等。
- 冥王星** 「ふたご」座デ星の東一度餘の所を逆行中。